



2030 年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋 1 9 6 3

(株)エホ・リレーション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net

<https://3c-mie.net/>



やっと秋らしくなってきましたが、異常気象の余波を感じる日もあるようです。

日本の国のかじ取りをめぐる話題で報道はにぎわっていますが、やはりスポーツの話題が気持ちを高揚させます。大相撲や野球、とりわけメジャーでの日本人選手の活躍は感動を呼びますね。

さて、今回は地域で地道に頑張ってみえる伊勢市議会議員の宮崎さんにご投稿をいただきました。

いまよりもっと 魅力ある伊勢市を目指して！

今年度から会員になりました、伊勢市議会議員の宮崎誠と申します。

私は 2008 年にシンフォニアテクノロジー株式会社(旧・神鋼電機株式会社)伊勢製作所 航空宇宙機器工場製造部に入社し、約 3 万点に及ぶ製造マニュアル(作業標準)の作成に従事してきました。現在は、弊社労働組合での活動を経て、先輩議員の後を引き継ぐかたちで 2017 年より伊勢市議会議員を務めさせていただいております。

私は 2 人の障がいのある子どもを育てる親として、「誰一人取り残さない」やさしい環境づくりを目指し、伊勢市で暮らし・働き・子育てに魅力を感じられるまちづくりに取り組んでいます。

一部ではございますが、2期8年間での取り組みをご紹介します。



伊勢市議会議員 宮崎 誠 氏



伊勢市内の圃場で実ったワインぶどう

事業所がワインづくりに取り組んでいます。全国的にも農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加が問題となる中、農福連携を障がい者の就労機会創出につなげたいと考えています。

さらに、地ワイン製造・販売を通じて多様な農業経営スタイルの実現や雇用創出、農地の新たな活用を進め、ワインを伊勢の新たな特産品とすることで観光事業との連携にもつなげたいと考えています。今後は伊勢市産農作物のブランド価値を高め、地域の活性化へ発展させていきたいと考えています。

～農福連携への取り組み～

川井先生のご紹介で 2022 年度「農業ジョブトレーナー養成講座」に参加し、農福連携の必要性について改めて学ぶ機会をいただきました。

同じ頃、わが子が利用している放課後デイサービス「放課後の家」から「障がいのある方が安心して働ける環境を整えるため、伊勢市で『ワイン特区』を取得できないか」というご相談をいただきました。

その後、伊勢市と協議の上、国へ申請を行い、構造改革特別区域計画「伊勢わいん特区」が 2023 年 3 月 31 日付で内閣総理大臣から認定されました。



ワイン特区取得に係った方々との懇談の様子

現在、市内の圃場では 2 か所の

～プラスチックごみの減量・削減への取り組み～

伊勢市内でもごみのポイ捨てが課題となっており、ボランティア団体と共に外宮参道やおはらい町でのごみ拾い、二見浦海岸でのビーチクリーンに参加しています。ポイ捨てごみにはレジ袋も多く含まれており、プラスチックごみ削減の必要性を強く感じています。

そのような中、2024 年 4 月 1 日からプラスチック削減と市民の環境意識向上を目的に、「ザ・ビッグエクスプレス」3 店舗(神田久志本店・小俣店・玉城店)のご協力を得て、買い物客が購入するレジ袋の代わりに伊勢市指定の家庭ごみ袋(15 リットルサイズ)を 1 枚単位で販売する取り組みが、三重県内で初めて始まりました。

今後はレジ袋代用としてより使いやすいデザインへの改良や、コンビニ向けサイズの追加などを進め、ごみ減量につなげていきたいと考えています。

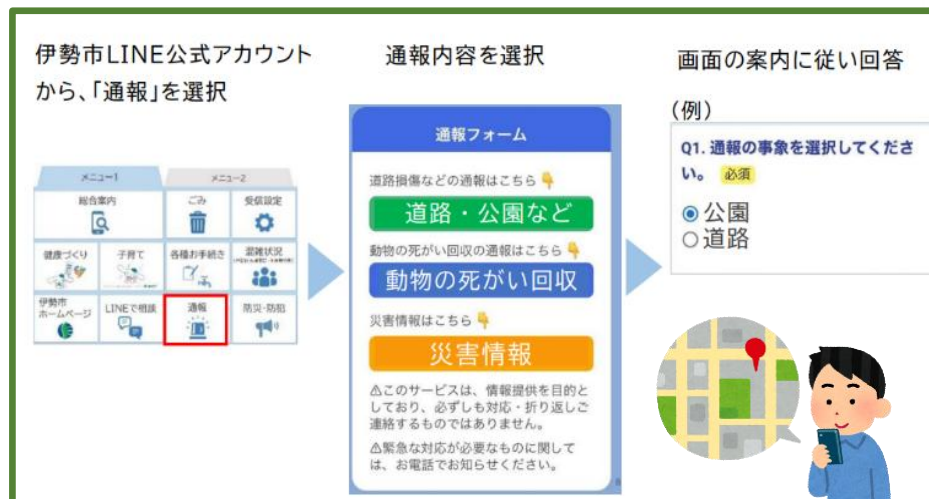


協力店舗レジ前での市指定ごみ袋販売の様子

～地域の安全・安心につながるシステム構築への取り組み～

地震や津波などの自然災害発生時には、小中学校の体育館や公民館、高台（津波タワー）などが防災拠点（避難場所）となります。伊勢市は観光都市でもあるため、市民だけでなく観光客も安全・安心に避難行動をとれる体制が必要です。そのため、平時・災害時を通じて Wi-Fi 環境を整備し、観光拠点から防災拠点への誘導や情報収集・連絡手段の確保を進めてきました。現在、市内 27 の避難所（主に小中学校）で Wi-Fi 整備が完了しています。

今後は、民間主導による交通・商業施設、行政主導による観光・防災拠点への Wi-Fi 整備を官民連携で推進していきたいと考えています。



道路・公園 損傷通報システム

～若年者（AYA 世代※）がん患者支援への取り組み～

40 歳未満の末期がん患者支援が他自治体で進んでいることを知り、AYA 世代がん患者支援のあり方について、日本初の骨髄バンクを設立した大谷貴子氏や、市内訪問看護事業所と意見交換を重ねました。その結果、2022 年 4 月から三重県初の事業として「若年者のがん患者在宅支援サービス費助成事業」を実現しました。

2025 年現在、桑名市・いなべ市・木曽岬町・四日市市・亀山市・松阪市・伊勢市・川越町・多気町・大紀町・玉城町の 6 市 5 町において、訪問介護や訪問入浴介護などの在宅支援サービス利用料、福祉用具の貸与・購入費用の一部助成が始まり、支援の輪が広がっています。さらに、伊勢市では 2025 年 4 月から「がん患者医療用ウィッグ等購入費助成事業」も開始されました。※AYA 世代とは「Adolescent and Young Adult」の略で、15 歳から 39 歳までの若年層を指します。

<トピックス>

◆ 鈴鹿医療科学大学の神藏教授と救急救護サークルの学生のみなさんにより玉城町有田小学校で「こども 119」と称して救命活動の体験学習ゲームが開催されました。



胸骨圧迫体験



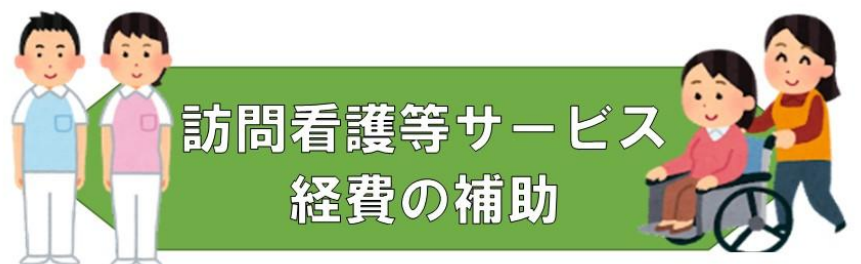
搬送体験

平時と災害時におけるWi-Fiの活用



また、2024 年 6 月 17 日からは伊勢市 LINE 公式アカウントを通じ「道路・公園 損傷通報システム」が利用可能となりました。このシステムでは道路や公園の損傷箇所のほか、動物の死がい回収依頼、道路冠水などの情報を市民が写真付きで通報できます。従来は自治会を通じた要望が必要でしたが、システム導入により対応が迅速化しました。市民による見守り活動の強化にもつながり、通学路の安全対策など早期解決が可能となっています。

今後は、位置情報を簡単に送信できる 2 次元コードの活用など、更なる利便性向上を図っていきます。



訪問看護等サービス 経費の補助



福祉用具購入及び 貸与経費の補助

若年者のがん患者在宅支援サービス

◆ 三重県障がい者就農促進協議会は、2015 年に発足し、障がい者が農業分野で活躍することで、自信や生きがいを感じ社会参画することを目的とした農福連携の推進に取り組み 10 周年を迎えました。

これを記念して式典の開催と講演が予定されます。

ぜひみなさんお誘いの上ご参加ください。

また今回、記念冊子を発行しますので製作のための協賛もお願いしています。

開催日:11 月 23 日(日)
式典 13:50～
講演:14:45～
16:15
会場:三重県総合文化センター
レセプションルーム



<講演講師>

東京大学大学院
特任教授鈴木宣弘氏

式典問合せ先 TEL059-253-4187

Eメール mieshuno@dune.ocn.ne.jp